

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	三遠南信教員交流	会計	一般会計	事業No.	719	施策順No.	82-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-3-2-10-1		
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり			課等名	学校教育課		
施策	82 三遠南信・中京圏の連携推進			事業期間	開始	11	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市の教職員						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		飯田市の教職員数		720	720	720	720	
意図	・飯田市の教員の資質向上と三遠南信交流を目的に、お互いの授業方法、学校環境、地域性を学べることにより、より知識を深め、教員の指導力の向上を図る ・その成果を子どもたちに還元する							
対象をどう変えるか	対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)						目標達成度
		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	A
	三遠南信交流に派遣した教職員数(累計)	36	40	44	48	48	52	
	浜松豊橋からの教職員を受け入れた学校数(累計)	36	40	42	44	44	46	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	毎年浜松・豊橋から2名の教職員の受入と派遣を行っており、期待度の高さが伺える							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 平成5年当時、飯田・浜松市間で交流をしており、平成11年現在の三遠南信中学生交流開始と同時に3市による教員交流も開始された 2 教員交流を行うことにより、それぞれの市の教育に対する取り組み、教育方法などを学び、当市の教育への活用を図る		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 小学校教職員(2人)、中学校教職員(2人)を浜松市、豊橋市に派遣 2 豊橋市教職員を市内小中学校へ受入 (1)教育長との意見交換 (2)担当する教科を中心とした授業参観、意見交換 (3)帰校後、レポート交換	浜松市、豊橋市派遣教職員受入校	4人 2校
23年度実施計画	1 小学校教職員(2人)、中学校教職員(2人)を浜松市、豊橋市に派遣 2 豊橋市教職員を市内小中学校へ受入れ (1)教育長との意見交換 (2)担当する教科を中心とした授業参観、意見交換 (3)帰校後、レポート交換	浜松市、豊橋市派遣教職員受入校	4人 2校

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		137	137	137		
計(A)		137	137	137		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			137			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	三遠南信・中京圏と ①共通の課題を認識する ②協力し補完しあう	施策の成果指標又はムトス指標	都市間交流に参加している市民の割合 (三遠南信・中京圏) 三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・教員が経験した交流内容や二市の様子を子供たちに伝えることで、子供たちの三遠南信地域についての理解が深まるとともに、自主的交流事業発展に結びついた。		
	後期に向けた課題	・三遠南信中学生交流事業と合わせ、今後も中京圏との連携推進が望まれている。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・実際に小中学校に教員を受入れより実践的な交流活動を行ってきている。		
	後期に向けた課題	・小中連携・一貫教育等先進事例の検討にも効果があると考えている。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・必要経費は旅費等であり、最低限の経費であるため、これ以上の削減は難しい。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・三遠南信地域の教員が受益者であるが、交流成果を児童生徒に還元し活動促進につながるため、市が関与することは適当である。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	・三市相互に教員交流を行い他市の教育方法を学ぶことで、市の教育に活かされるとともに、児童生徒が三遠南信地域に興味関心をもつきっかけとなっている。		
	後期に向けた課題	・継続した連携推進が必要とされている。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------